

ワーキング・グループ（WG）検討状況

1. UI/UXワーキング

- 行動規範『**#1 顧客視点でデザインしよう**』『**#3 誰ひとり取り残されないようにしよう**』の理念のもと、都民誰もが必要な行政サービスを楽しむよう、UI/UXに関する仕組み（マネジメントシステム）を検討

WGメンバー

民間有識者			東京都
1. (株)グッドパッチ	代表取締役 兼 CEO	土屋 尚史氏	・デジタルサービス局 ・生活文化局広報広聴部 ・DXフェロー 宇野 雄 (クックパッド(株)デザイン戦略本部長)
2. (株)THE GUILD note(株)	代表取締役 兼 CEO CXO	深津 貴之氏	
3. ラクスル(株)	取締役CPO	水島 壮太氏	

※アクセシビリティなど、今後議論を進める上で関連するメンバーの追加も検討

WGのスケジュール (予定)

- 第3回会議：WGにおけるターゲット・スコープ、検討の方向性について報告
- 第4回会議：ガイドライン骨子と次年度の検討スコープ・スケジュール案を報告

	12月	1月	2月	3月
WG		★kickoff	必要に応じて開催（月2回程度）	
東京デジタルサービス会議	★第2回(12/27)	★第3回(1/24)	★第4回(3/31)★	

実施内容

WG	議題・内容（案）
#1 (1/14)	<ul style="list-style-type: none">✓ UI/UXワーキング立上の背景（東京デジタルサービス会議振り返り）✓ WGのゴール・体制・スケジュールの共有✓ 各委員プレゼン（貴社の事例(指針や社内普及施策等)紹介）✓ WGのターゲット・スコープの整理
#2	<ul style="list-style-type: none">✓ #1で定めたスコープの論点整理✓ 今後のステップ（具体的なタスクの明確化）
#3	<ul style="list-style-type: none">✓ 今年度成果物のイメージ（今年度ゴール設定）✓ 先進事例調査報告及び成果物への反映の考察
#4	<ul style="list-style-type: none">✓ 成果物精査（ブラッシュアップ・検討）
#5	<ul style="list-style-type: none">✓ 成果物精査（ブラッシュアップ・検討）
#6	<ul style="list-style-type: none">✓ 検討結果の取りまとめ（ガイドライン骨子を想定）✓ 令和4年度取組のスコープ・スケジュール

- 以下のとおり、第1回会議を開催

日時/形式

令和4年1月14日（金） 16:00-17:30 オンライン開催

出席者

深津 貴之 (株)THE GUILD代表取締役 兼 CEO

水島 壮太 ラクスル(株)取締役CPO

※ 土屋氏はご都合が合わず欠席

(東京都)

久我 英男 デジタルサービス局次長

デジタルサービス局戦略部

深井 戦略部長

荻原 サービス開発担当部長

事務局

宇野 雄 DXフェロー

議事次第

1. 開会あいさつ
2. 東京デジタルサービス会議
議論サマリ(UI/UX WGへの引継ぎ事項)
3. WGメンバープレゼン
4. 事務局案説明
 - ・WGのゴール・体制・スケジュール
 - ・WGのターゲット・スコープの整理
5. 議論
6. クロージング

- 今後の議論方向性について、事務局より以下案を提示

サービスデザインについて

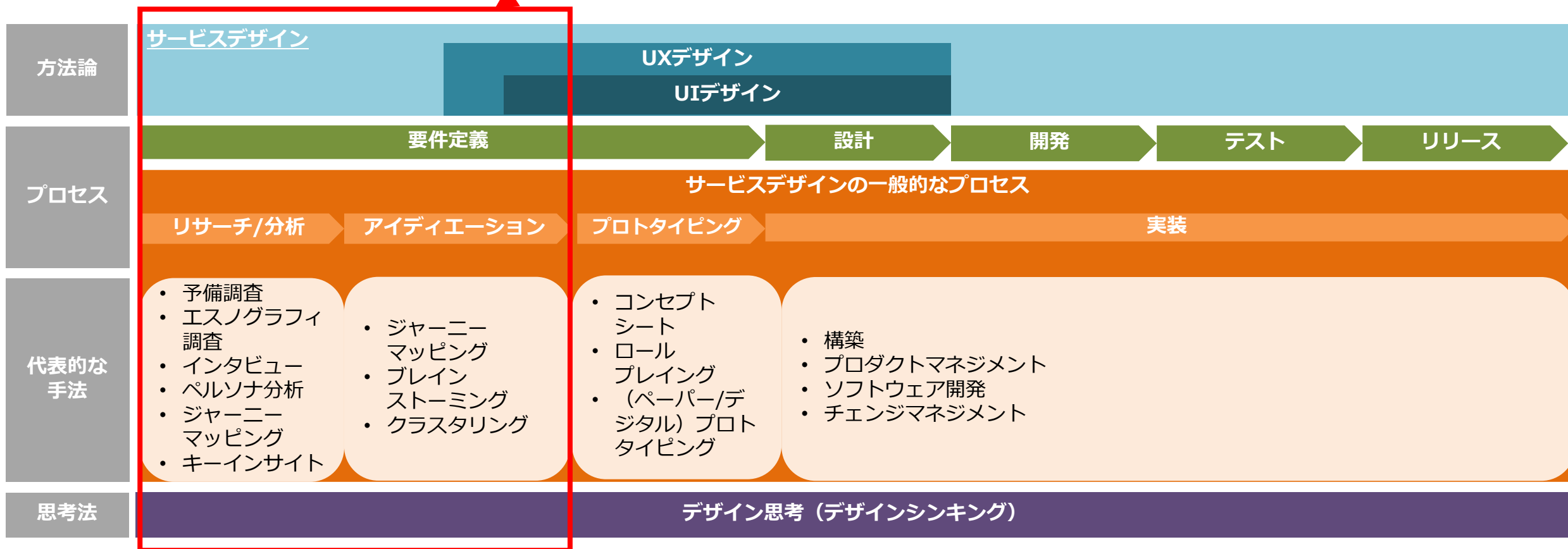
- 「#1 顧客視点でデザインしよう」に対応するため、サービスデザインに取り組む
- 特に**上流の工程「リサーチ／分析」「アイディエーション」**（※次ページ）から取り組む
- 成果物イメージ
 - ・サービスデザイン（リサーチ／分析、アイディエーション）ガイドブック骨子
 - ・サービスデザイン浸透のための実行計画案

アクセシビリティについて

- 「#3 誰ひとり取り残されないようにしよう」に対応するため、アクセシビリティ向上に取り組む
- 今年度は**課題顕在化しているウェブアクセシビリティ運用面改善**から取り組む
- 来年度に向け、様々な**当事者から意見を聞くスキーム**を整理する
- 成果物イメージ
 - ・ウェブアクセシビリティ実行計画
 - ・アクセシビリティ確保のためのニーズ調査実行計画骨子

(※) 上流の工程「リサーチ／分析」「アイディエーション」のイメージ

サービスデザインで特に取り組みたい部分



- 事務局案に対するWGメンバーからの意見は以下のとおり

WGメンバーご意見

- ・スコープの範囲が大きすぎ、終わりが見えなくなってしまう。まず**この事業のMVP**（Minimum Viable Product：顧客価値があり、利益を生み出せる最小限のもの）を決めるべき。
- ・**クイックウィンできるプロダクト**で正しく**サービスデザインのサイクルを回す体制**をつくるべきでMVPではないか。
- ・都庁においての最優先は、**ユーザの声を聞いて改善するサイクルづくり**ではないか。アクセシビリティは其中でテーマとして扱っていく。
- ・実際に改善までできずとも、ワークショップでサービスデザインの視点で課題を洗い出すだけでも最初は良い。

→上記ご指摘を受け、事務局で以下のような作業を予定

- ・今年度ゴール設定の再検討、成果物案の練り直し
- ・同様の取組（サービスデザイン手法を用いた取組事例）を調査
- ・サービスデザインの重要性を理解してもらうためのワークショップ検討

- ボリュームが大きいためまず**MVPを定め小さく実績をつくる**べき
- サービスデザインができるベンダーは限られる
- まず**サービスデザイン実践ができる体制**を作ることが大事。デジタル庁では内製でデザインチームをつくっている
- 都庁における**MVPは調査、プロト、評価、修正のサイクルを回せる体制をつくること**と考える。これをやらずに一部分だけ着手すると、結局確認なしのウォーターフォールとなり機能しないということになってしまう
- 上記サイクルにより顧客と向き合えば、アクセシビリティもおのずと向き合うことになる
- サービスデザインを適用するプロダクトは**クックウィンでき、かつ都庁サービスの中で目立つもの**が良い。デジタル庁はホームページにデザイナーをつけてサイクルを回している
- いきなり内製でデザイナーをかかえられなくとも、まず**サービスデザイン部分は調達を分ける**ということもあり得る
- 職員の理解を得るためには**課題設定が大事**。大きな問いを職員あるいは外部の人が投げかけ、それに対する解がいくつもある中でサービスデザイン手法を用いて解像度を上げていく
- わかりやすいお題を与えるのは大事。実際直すところまでできなくとも、**サービスデザインの視点をもつとこういう課題が見えてくるということを経験**するだけでも良い。共感した組織から巻き込んでいく
- 都庁職員はこれまで**伝えるということが仕事に含まれていなかった**。この取組はこれまでの仕事にプラスとなるため負担になるが、やれる人をピックアップすることが大事
- アクセシビリティについては、**一般健常者でもそもそもサービスにアクセスできていない**
- デジタル庁は申請主義からの脱却を明言している

- サービスデザインについて、全体を小さく回した実績を作るべきとの方向性にご意見はあるか

2. データ利活用ワーキング

- 行動規範『#4 資源（データ）を最大限に活用しよう』『#8 都民と共創しよう』の理念のもと、都民の資産であるデータを都民と共に活用し、より良いデジタル社会を実現できるよう、データに関する仕組み（マネジメントシステム）を検討

WGメンバー

民間有識者			東京都
1. (株)ブレインパッド	代表取締役社長	草野 隆史氏	・デジタルサービス局 ・DXフェロー 関 治之 ((一社)コード・フォー・ジャパン 代表理事)
2. (一社)リンクデータ	代表理事	下山 紗代子氏	

※デジタル庁とも連携（オブザーバー）

WGのスケジュール（予定）

- 第3回会議：WGにおけるターゲット・スコープ、検討の方向性について報告
- 第4回会議：ガイドライン骨子と次年度の検討スコープ・スケジュール案を報告

	12月	1月	2月	3月
WG		★kickoff	必要に応じて開催（月2回程度）	
東京デジタルサービス会議	★第2回(12/27)	★第3回(1月下旬)	★第4回(3月末)★	

実施内容

WG	議題・内容 (案)
#1 (1/19)	<ul style="list-style-type: none">✓ データ利活用ワーキング立上の背景 (東京デジタルサービス会議振り返り)✓ WGのゴール・体制・スケジュールの共有✓ 各委員プレゼン (事例(データ戦略、普及施策等)紹介)✓ WGのターゲット・スコープの整理
#2	<ul style="list-style-type: none">✓ #1で定めたスコープの論点整理✓ 今後のステップ (具体的なタスクの明確化)
#3	<ul style="list-style-type: none">✓ 今年度成果物のイメージ (今年度ゴール設定)✓ 先進事例調査報告及び成果物への反映の考察
#4	<ul style="list-style-type: none">✓ 成果物精査 (ブラッシュアップ・検討)
#5	<ul style="list-style-type: none">✓ 成果物精査 (ブラッシュアップ・検討)
#6	<ul style="list-style-type: none">✓ 検討結果の取りまとめ (ガイドライン骨子を想定)✓ 令和4年度取組のスコープ・スケジュール

- 以下のとおり第1回会議を開催

日時/形式

令和4年1月19日（水） 11:00-12:00 オンライン開催

出席者

草野 隆史氏 (株)ブレインパッド代表取締役社長
下山 紗代子氏 (一社)リンクデータ代表理事

(東京都)

久我 英男 デジタルサービス局次長
デジタルサービス局戦略部

深井 戦略部長

荻原 サービス開発担当部長
事務局

関 治之 DXフェロー

(オブザーバー)

平本 健二氏 デジタル庁データ戦略統括

議事次第

1. 開会あいさつ
2. 東京デジタルサービス会議
議論サマリ(データ利活用WGへの引継事項)
3. WGメンバープレゼン
4. 事務局案説明
 - ・WGのゴール・体制・スケジュール
 - ・WGのターゲット・スコープの整理
5. 議論
6. クロージング

- 今後の議論方向性について、事務局より以下案を提示

ガイドラインの策定について

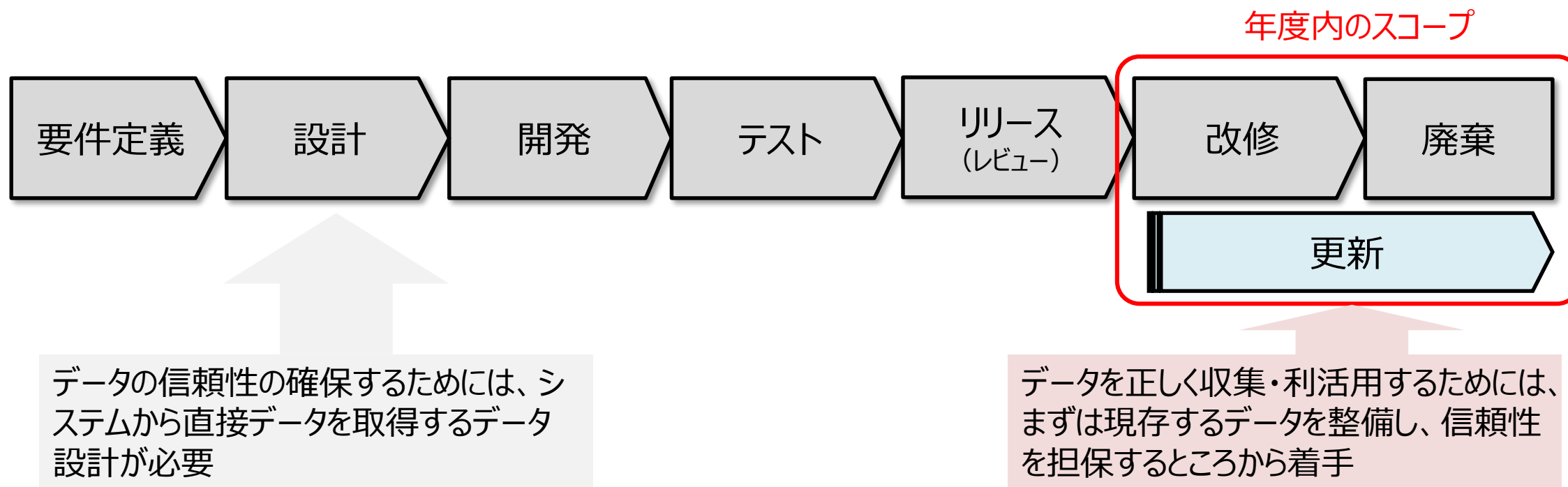
- 国など公的機関の定めるガイドラインと整合性を取った上で、都が策定するガイドラインへの反映事項を整理
- 今年度のガイドラインの作成範囲は、**既存データを整備し、信頼性を担保する**ところとする（※次ページ）
- 成果物イメージ
データ利活用ガイドライン骨子

データ利活用ユースケースの創出について

- 策定されるガイドラインを遵守させるために、データを利用する対象者が**データを利用していくユースケースを創出し、データを活用すること・共有することのメリット**を整理
- 今年度はデータの重要性に気付かせるため、複数局に跨るデータによるユースケースを創出
- 成果物イメージ
データ利活用ユースケース（例：防災・公園・都施設など複数局に跨る分野の事例）

(※) ガイドラインのスコープ

- ✓ 現存するデータだけでなく新規に生成されるデータも含めて、都民にとって意義のあるデータを生成するためのガイドラインを策定していく
- ✓ データに関しては都独自で策定するものではないため、国など公的機関の定めるデータ系ガイドラインと整合性を取った上で、都が策定するガイドラインへの反映事項を整理



- 事務局案に対するWGメンバーからの意見は、以下のとおり

WGメンバーご意見

- ・**データの定義**をすることは重要。データと情報を明文化しておかないと、利活用する際にデータの認識が揃わない
- ・都としてやっていくべき重要な施策や都民から不満が多いところなど、プライオリティの高いものから実施すれば良い
- ・組織内だけでなく整理できる**都の保有施設**などが取り組みやすいのではないか
- ・他自治体の取り組みでも**イベント情報**から取り組むことはある
- ・**政策目標をデータで検証し可視化**するのが良いのではないか

→上記ご指摘を受け、事務局で以下のような作業を予定

- ・都としてデータ利活用する対象であるデータの定義
- ・今年度取り組むユースケースの再検討（都保有の防災系施設、イベント情報系、政策系など）

- **どんなデータが庁内に存在しているか**把握できているものか
- 都としてやっていくべき重要な施策や、都民から不満が多いところなど、プライオリティの高いものはあるか
- **データの定義の明文化**は重要。政府のデータ戦略では広義にとらえている。その認識が揃わないと「これはデータではない」などと揺らいでしまう
- データは情報を形式化したもの。**行動指針におけるデータの定義**をまず明言化する必要がある
- 情報公開とオープンデータの違いなど、似たようなもので整理をしていくと伝わりやすい
- 許認可に関わる事務所の整備をする中で、**組織内だけでまず整理ができる都保有施設**が取り組みやすいのでは
- 他自治体でも**イベント情報**から取り組むことはよくある
- イベントの場合それが過ぎると価値が失われる。**作ったら長く使えるデータ**のほうがあるという点はある
- グリーンや東京ベイeSGプロジェクトなどの政策はどうか。政策目標をKPIで定めて、**データで検証し可視化**するのが良いのでは。5つのレスでダッシュボードで見せていたのは非常に良かった

- 今年度取り組むユースケースについて、防災系・イベント情報系・政策系に取り組む方向性にご意見はあるか。

3. セキュリティワーキング

- 行動規範『#5 安全安心なデジタル社会をつくろう』の理念のもと、誰もが安全安心に利用できるデジタル化を実現し、信頼できるデジタル社会を構築できるよう、情報セキュリティに関する仕組み（マネジメントシステム）を検討

WGメンバー

民間有識者			東京都
1. 産業技術大学院大学	教授	小山 裕司氏	・デジタルサービス局 ・DXフェロー 楠 正憲 (デジタル庁統括官 デジタル社会共有基盤機能グループ長)
2. 明治大学経営学部	教授	中西 晶氏	

WGのスケジュール（予定）

- 第3回会議：WGにおけるターゲット・スコープ、検討の方向性について報告
- 第4回会議：ガイドライン骨子と次年度の検討スコープ・スケジュール案を報告

	12月	1月	2月	3月
WG		★kickoff	必要に応じて開催（月2回程度）	
東京デジタルサービス会議		★第2回(12/27)	★第3回(1/24)	★第4回(3/31)★

3. セキュリティワーキングについて

- 令和3年度は以下のとおり実施予定

○第1回（1月24日）

課題共有

○第2回（2月中旬予定）

論点整理

○第3回（3月中旬予定）

ガイドライン骨子の作成、今後の課題（継続検討事項の整理）



（3月31日予定）第4回東京デジタルサービス会議 【WG検討状況報告】

※第3回WGにおいて継続検討事項の整理を行い、令和4年度も引き続き検討

※会議及びガイドラインについては、非公開とする

3. セキュリティワーキング > 開催概要（予定）

- 以下のとおり第1回会議を開催予定

日時/形式

令和4年1月24日（月） 13:30-14:30 オンライン開催

出席者

中西 晶 明治大学経営学部教授
小山 裕司 産業技術大学院大学教授

（東京都）
久我 英男 デジタルサービス局次長
デジタルサービス局総務部
水落 情報セキュリティ担当部長
デジタルサービス局戦略部
鳥塚 勲 デジタルシフト推進担当課長
岡本 拓 デジタルシフト推進担当課長
片山 昌樹 デジタルシフト推進担当課長
事務局

楠 正憲 DXフェロー

議事次第

1. 開会あいさつ
2. 課題共有
3. 意見交換
4. 閉会

UI/UXWGの論点

- サービスデザインについて、全体を小さく回した実績を作るべきとの方向性にご意見はあるか

データ利活用WGの論点

- 今年度取り組むユースケースについて、防災系・イベント情報系・政策系に取り組む方向性にご意見はあるか